

今月のトピックス

ゴールデンウィークの旅客輸送等の動向について

平成 15年度ゴールデンウィークの旅客輸送等の動向

1. 鉄道

JR（平成15年4月25日～5月5日）

今年のゴールデンウィークは、曜日配列の関係から長期休暇がとりづらい状況にあり、特急・急行の利用者はグループ全体で9%減となり、昨年を大きく下回った。

新幹線の輸送量は、桜の開花期と重なった東北地方（秋田新幹線124%、東北新幹線102%）を除き前年を大きく下回った。

JRグループ主要区間における特急・急行列車上下計の断面輸送量（単位：千人）

会社名（区間数）	期間	H14.4.26 ～ H14.5.6	H15.4.25 ～ H15.5.5	前年比（%）
JR北海道（4）		333	309	93
JR東日本（18）		4,125	3,890	94
JR東海（10）		2,889	2,618	91
JR西日本（12）		2,198	1,849	84
JR四国（3）		156	138	89
JR九州（3）		577	510	88
計（50）		10,259	9,313	91

合計値、前年比は四捨五入の関係で合致しない場合がある。

新幹線旅客輸送人員前年比（%）

東海道	山陽	東北	上越
91	85	102	92
長野	山形	秋田	
92	87	124	

大手民鉄（平成15年4月26日～5月5日）

比較的天候に恵まれ沿線の行楽地や新たに開業された商業施設、テーマパークに出向く者が増加した関東地区は好調に推移したものの、その他の地区では低調に推移し、全体では対前年同期比で2.0%増となった。

大手民鉄 定期外旅客輸送量 (単位 :千人)

会 社 \ 期 間	H14.4.26 ～ H14.5.5	H15.4.26 ～ H15.5.5	前年比 (%)
関 東 7 社	46,679	48,650	104.2
関 西 5 社	22,858	22,513	98.5
そ の 他	5,600	5,513	98.4
計	75,137	76,676	102.0

関東7社は、東武、西武、京成、小田急、京急、営団、相鉄。関西5社は、近鉄、南海、京阪、阪急、阪神。

その他は、名鉄、西鉄。なお、小田急、営団については、4.29～5.5の7日間。

合計値、前年比は端数整理、四捨五入の関係で合致しない場合がある。

2. 国内航空 (平成15年4月26日～5月5日)

国内航空については、曜日配列の関係から長期休暇がとりづらい状況にあり、期間内でみると合計で対前年同期比3.7%減となった。

スカイマークエアラインズ、日本航空等は便数の増加により高い伸び率となっている。

なお、ピークは下りが4月26日、上りが5月5日となった。

(単位 :千人)

会 社 \ 期 間	H14.4.26 ～ H14.5.5	H15.4.26 ～ H15.5.5	前年比 (%)
日本航空	598	695	116.2
全日本空輸	1,138	1,078	94.7
日本エアシステム	624	532	85.3
エアーニッポン	183	125	68.2
日本トランスオーシャン	77	79	102.4
日本エアコミューター	39	41	106.3
琉球エアコミューター	6	7	124.8
ジェイ・エア	8	10	122.4
JALエクスプレス	28	23	83.8
スカイマークエアラインズ	42	53	126.4
北海道国際航空	24	19	80.8
計	2,766	2,663	96.3

合計値、前年比は端数整理、四捨五入の関係で合致しない場合がある。

3. 国際航空 (平成15年4月26日～5月5日)

国際航空については、曜日配列の関係から長期休暇がとりづらい状況にあること、また、新型肺炎 (SARS) やイラク戦争の影響により中国、東南アジア方面を中心に旅行者が激減し、期間内でみると対前年同期比43.5%減となった。

なお、SARSの影響を受けなかったオセアニアは減少幅が小さかった。

出国のピークは4月26日となっており、また帰国のピークは5月5日であった。

本年のゴールデンウィーク期間中の国際航空利用者数は298千人となり、大幅に落ち込んだ。この数は、昭和63年のゴールデンウィークにおける国際航空利用者数と同じ水準となっている。

(単位 :千人)

会 社 \ 期 間	H14.4.26 ~ H14.5.5	H15.4.26 ~ H15.5.5	前年比 (%)
日本航空システム	382	217	56.8
日本アジア航空	31	15	48.6
全日本空輸	111	64	57.7
エアーニッポン	2.8	1.8	64.3
計	527	298	56.5

日本航空システムは、JAL、JAS、JAZの合計値。

日本発着ベース

合計値、前年比は端数整理、四捨五入の関係で合致しない場合がある。

(参考) 日本航空システム (JAL、JAS、JAZ) の日本発方面別輸送実績 (単位 :人、%)

路 線	ホノルル	米大陸	欧 州	東南アジア	北アフリカ	中東・インド	韓 国	中 国
旅客数	16,816	16,532	14,454	19,852	8,525	7,083	14,888	3,719
前年比	52.8	75.0	57.7	40.3	82.8	46.8	67.6	20.7

4. 高速道路 (平成15年4月25日 ~ 5月5日)

全国の日本道路公団所管の高速道路の利用台数は、対前年同期比2.2%減となった。

主な道路の利用台数でみると、東北自動車道が0.7%減、東名高速道路が1.0%減、名神高速道路が1.2%増であった。また、国際空港利用者の大幅な減少等により、新空港自動車道が19.9%減、関西空港自動車道が10.1%減であった。

なお、下り線では5月3日に、また上り線では5月4日に混雑のピークが見られた。

高速道路出入交通量 (日平均)

(単位 :千台)

区 分 \ 期 間	H14.4.26 ~ H14.5.6	H15.4.25 ~ H15.5.5	前年比 (%)
全国高速道路	4,197	4,103	97.8
東名高速道路	423	418	99.0

5. 旅行業者の主催旅行による出発人数

旅行業者主要5社が取り扱った主催旅行による旅行出発人数をみると、国内旅行については15.0%減、海外旅行については68.0%減となった。

今年は、曜日配列の関係から長期休暇がとりづらい状況にあることに加え、新型肺炎 (SARS) やイラク戦争の影響から前年を大きく下回った。

	前年比 (%)
国 内 旅 行	85.0
海 外 旅 行	32.0

- 1 国内旅行は、ジェイティービー、近畿日本ツーリスト、日本旅行、阪急交通社及び東急観光の5社
 海外旅行は、ジェイティービー、近畿日本ツーリスト、日本旅行、阪急交通社及びジャルパックの5社
- 2 調査期間は、4月26日～5月5日。

< 参考 > 今年と昨年の曜日配列の比較

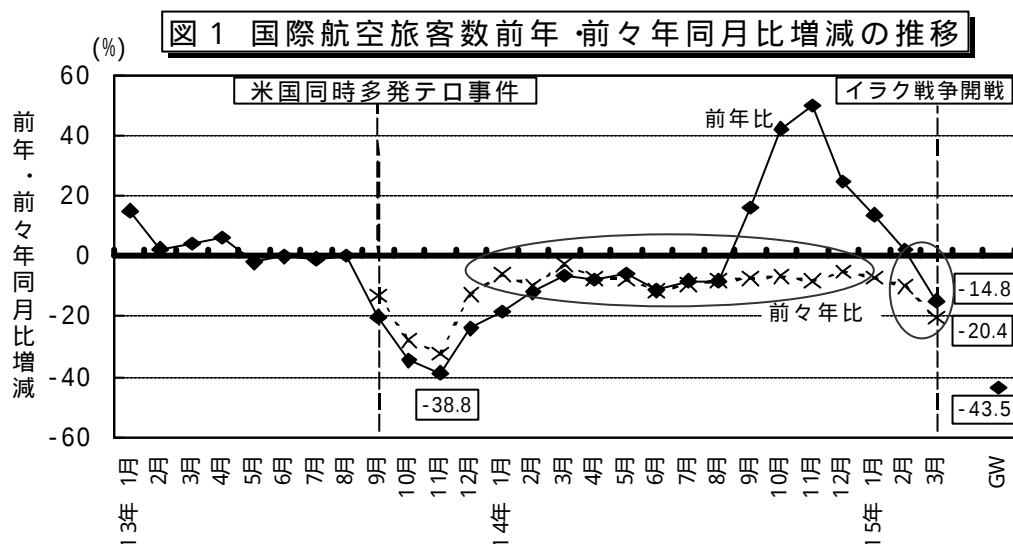
今年は昨年に比べ休日が1日少ないとともに、飛び石連休となった。

		4/26	27	28	29	30	5/1	2	3	4	5	6
14	曜	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
年	日				みどりの日				憲法記念日	国民の休日	子供の日	振替休日
		4/25	26	27	28	29	30	5/1	2	3	4	5
15	曜	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
年	日				みどりの日				憲法記念日		子供の日	

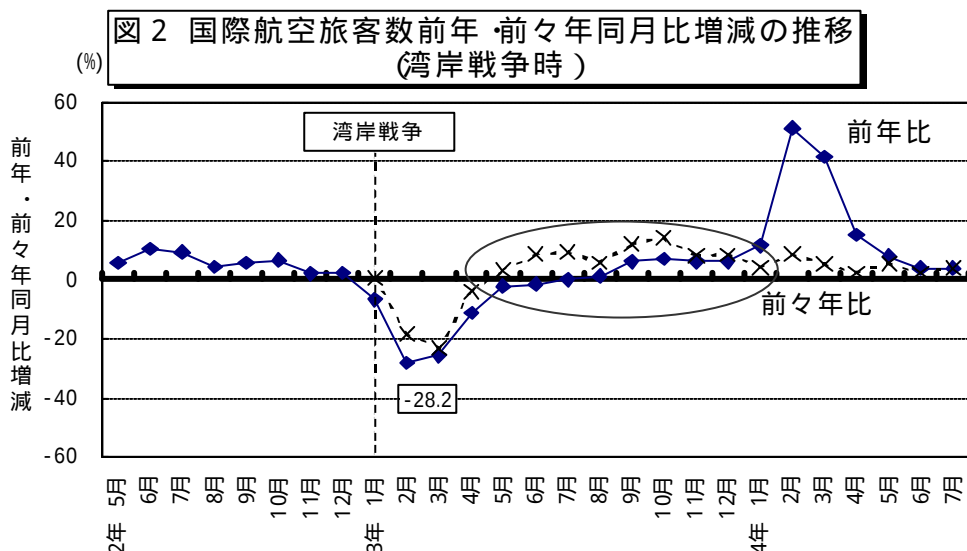
近年の国際旅客輸送の動向

1. 国際航空旅客の推移

平成13年1月以降における国際航空旅客数の対前年同月比の推移をみると(図1参照)、平成13年9月11日の米国同時多発テロ事件(以下「米国テロ事件」という)の影響により、同年11月の最大約4割減をピークとして大幅減となったのち、平成14年3月以降はほぼ約9割前後の水準で推移している。また、本年9月以降は大幅な反動増を記録しているが、対前々年同月比の推移をみると約1割減の状態が続いており、太平洋・ハワイ線等を中心に、その影響も長期にわたって残っていることが伺える。



注：国土交通月例経済により作成。



注：国土交通月例経済により作成。

一方、平成 3 年 1 月に発生した湾岸戦争時には、開戦からほぼ半年後にその影響を完全に脱している点が大きく異なっており(図 2 参照)、昨今の景気低迷に加え、米国テロ事件が民間旅客機が標的とされ、米本土で発生したことによる影響も大きかったものと考えられる。

また、本年 3 月以降については、イラク情勢の緊迫化・開戦(本年 3 / 20)、香港・シンガポールにおける新型肺炎(SARS)発生の影響を受け、対前々年比の減少幅を拡大しており、さらに 4 月以降は、これまで好調に推移してきた中国方面も SARS の影響により大幅に減少することが懸念される。

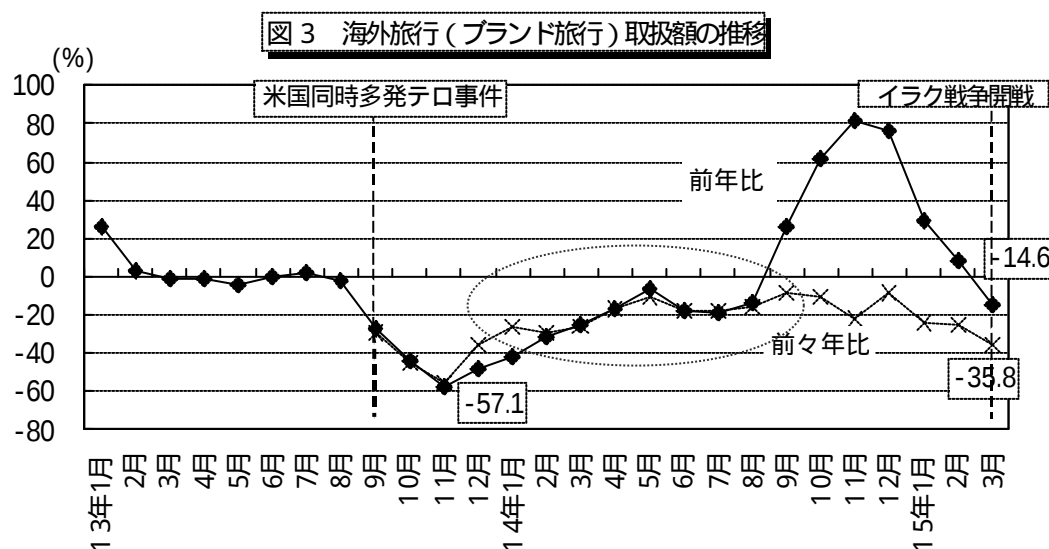
今回とりまとめた GW の国際航空旅客数の対前年度比も、米国テロ事件時における同旅客数の対前年比を超える減少幅となっている。イラク戦争の影響とも相まって、SARS の影響が米国テロ事件よりも航空業界に大きな影響を与えていることが伺える。

2. 海外旅行ブランド(企画商品)旅行の推移

平成 13 年 1 月以降における海外旅行ブランド(企画商品)旅行取扱額の推移をみると(図 3 参照)、米国テロ事件時の対前年同月比が大幅減となるなど国際航空旅客数とほぼ同様の推移となっている。

しかしながら、平成 13 年 11 月の減少幅は約 5 割を超え、昨年 9 月以降の対前々年同月比も約 2 割近い減少が続いたうえ、本年 3 月もイラク戦争及び SARS の影響によって、1. で述べた「国際航空旅客数」を上回る落ち込みとなっている。

これは、ビジネス目的等による利用者が含まれる国際航空旅客数に比べ、専ら観光目的の海外旅行企画商品は、事件・事故等による影響をより受けやすいためであると考えられ、一刻も早い SARS の沈静化が望まれる。



(参考)

【SARSとイラク戦争の経緯】

SARS	イラク戦争
2003 年 3 月 15 日 WHO、航空機の乗客の 症状に注意すること等 を求めた異例の注意報 発令 4 月 2 日 WHO、中国広東省と香港 への渡航自粛勧告発表 4 月 22 日 外務省、北京への渡航 延期勧告 4 月 27 日 死者 300 人突破 4 月 29 日 外務省、中国全土に渡 航注意(外務省危険情 報)	2003 年 3 月 17 日 米ブッシュ大統領、対イ ラク最後通告 3 月 20 日 米英、対イラク攻撃開始 4 月 9 日 バグダッド事実上陥落 5 月 7 日 米ブッシュ大統領戦闘終結 宣言

【米国同時多発テロと湾岸戦争の経緯】

米国同時多発テロ事件	湾岸戦争
2001 年 9 月 11 日 米国同時多発テロ発生 10月 7日 米国がアフガニスタン(タリバン 政権)へ攻撃開始 11月13日 首都カブール陥落 12月22日 暫定政権樹立	1990年 8月 2日 イラクがクウェート侵攻 1991 年 1 月 17 日 多国籍軍がイラクに対して 攻撃開始 2月27日 多国籍軍がクウェート市を解放 2 月 28 日 米国が勝利宣言、イラクが 戦闘停止、湾岸戦争停戦